

## 談話室

## Practical Surface Analysis-98 (PSA 98)

吉原一紘

金属材料技術研究所  
 ☎ 305-0047 茨城県つくば市千現 1-2-1  
 (1998年11月10日受理)

## Practical Surface Analysis-98 (PSA 98)

Kazuhiro YOSHIIHARA

National Research Institute for Metals  
 1-2-1 Sengen, Tsukuba, Ibaraki 305-0047

(Received November 10, 1998)

1998年10月19日から21日の3日間にわたり、島根県松江市くびきメッセにおいて Practical Surface Analysis-98 (PSA 98) が開催され、それに参加する機会を得たので報告する。表面分析法に関しては、たとえば ECA-SIA (European Conference on Surface and Interface Analysis) や QSA (Quantitative Surface Analysis) というような国際会議があるが、今回松江市で開催された PSA-98 は表面分析法の応用面に焦点を絞った会議であるということが、他の表面分析法に関する国際会議とは異なっている。すなわち、オージェ電子分光法、X線光電子分光法、二次イオン質量分析法などの実用的に広く使われている分析法が実際にどのような場面で使われているか、また分析精度を向上させるためにどのような工夫がなされているかを主題とした会議であった。

15か国から160名ほどの参加者があり、招待講演13件を含めて約120件の発表があった。Plenary Lectureは2件あり、1件は米国NISTのPowell博士による「Importance of VAMAS and ISO for Practical Surface Analysis」、もう1件は英国NPLのSeah博士による「New Aspects in Quantitative Surface Analysis」と題した講演であった。Powell博士は標準化が今後の表面分析には重要であると指摘をし、Seah博士からは定量分析精度の向上のためには基準となるスペクトルが重要であることが指摘された。2人とも、これまでに表面分析法の普及と標準化に力を入れてこられた方で、Powell博士はISO/TC 201委員会(表面分析法に関する国際規格委員会)の議長であ

り、Seah博士はVAMAS/TWA 2委員会(表面分析法に関する国際共同研究委員会)の議長である。この2件のPlenary Lectureに続いて、Fundamentals, Telepresence and Data Processing, Data Analysis, Device Evaluation and Failure Analysis, Technical Development, Material Analysis (Polymers, Metals, Insulator, Ceramics, Nanomaterials)のセッション順に講演があった。2日目にはポスターセッションがあり、約90件の発表があった。これまでのPSA会議では、ポスター発表の中からもっとも優れたものを参加者全員の投票で選び、その発表者に対してPowell Prizeを授賞することが行われてきた。今回は投票の結果NTT-ATの鈴木峰晴博士が受賞し、Powell Prizeの創始者であるPowell博士から直接授与された。

この会議は、表面分析研究会(一村信吾会長)の主催によるものであるが、島根県および松江市からの多大な援助をいただいた。しかし、会場の設営、バンケットやエクスカージョンにいたるまで全てが表面分析研究会会員の方々のボランティア活動により運営されており、手作りの見事な会議であった。会議の前日に開催されたエクスカージョンには出雲大社に大型バス2台を仕立てて出かけた。大型の台風が前日に中国地方に被害を与えたので、天候を心配したが、幸い天候にも恵まれ、海外からの方々も美しい木々に囲まれた出雲大社を満喫していた。松江市は美しい城下町で見物する場所も多く、皆さん大いに楽しまれたようであった。松江市は交通が不便だという印象が強く、参加者が多く集まるかと心配していたが、幸い予想を超える参加者があったことは主催者の1人として喜ばしい限りであり、本会議が今後表面分析がさらに広範囲に使用されるきっかけになったと信じている。なお、会議のプロシーディングスはJournal of Surface Analysis誌の通常号として発行されることになっている。

また、PSA-98に引き続いて10月22日には、くびきメッセで第2回表面分析に関する日韓シンポジウムが開催された。このシンポジウムは2年前にソウル市で開催されており、今回はこれに引き続くものである。シンポジウムの主題は「実用と標準」ということで、各機関が実際に測定の際にどのような基準を用いて装置等を校正しているかという報告をするというユニークな企画があった。なお、第3回は2年後に韓国慶州で開催することが韓国側より提案された。